

問 5 あなたのご両親の出生年月についておたずねします。(1) 出生年月を記入し、(2) 現在の生死の別についても、あてはまる番号に○をつけてください。

対象者	(1)出生年月	(2)現在の生死の別
父親	[ 1. 明治 2. 大正 3. 昭和 4. 西暦 ] _____年_____月	1. 健在 2. すでに死亡
母親	[ 1. 明治 2. 大正 3. 昭和 4. 西暦 ] _____年_____月	1. 健在 2. すでに死亡

問 6 あなたが 15 歳の頃、あなたの家庭の暮らしは、当時の平均的な家庭と比べて、どうでしたか。あなたの考えに近い数字に○をつけてください。

1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5 ..... 6 ..... 7 ..... 8 ..... 9 ..... 10  
 ← 低い 高い →

問 7 現在のあなたの暮らしは、世間一般と比べて、どのくらいだと思いますか。あなたの考えに近い数字に○をつけてください。

1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5 ..... 6 ..... 7 ..... 8 ..... 9 ..... 10  
 ← 低い 高い →

問 8 現在のあなたの暮らしは、あなたが 15 歳の頃と比べて、どのくらいだと思いますか。あなたの考えに近い数字に○をつけてください。

1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5 ..... 6 ..... 7 ..... 8 ..... 9 ..... 10  
 ← 低い 高い →

問 9 あなたが 15 歳の頃のあなたの父親は、仕事と家庭のどちらを優先していましたか。また、事実とは別に、あなたは仕事と家庭のバランスという点でどのような父親像が望ましいと思いますか。それぞれ、あなたの考えに近い数字に○をつけてください。なお、15 歳の頃に父親が不在だった方は、(1)は無記入で結構です。

(1) あなたが 15 歳のときのあなたの父親

1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5 ..... 6 ..... 7 ..... 8 ..... 9 ..... 10  
 ← 家庭優先 仕事優先 →

(2) あなたの望む父親像

1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5 ..... 6 ..... 7 ..... 8 ..... 9 ..... 10  
 ← 家庭優先 仕事優先 →

問10 あなたには現在、(1) 交際している異性がありますか。あてはまる番号に○をつけてください。また、交際相手がいる方は、(2) その人(二人以上いる場合はもっとも親しい人)との結婚の希望についてお答えください。

(1) 交際している異性の有無	(2) 交際相手との結婚の希望
1. 交際している異性はいない 2. 友人として交際している異性がいる 3. 恋人として交際している異性がいる 4. 婚約者がいる	1. 結婚したいと思っている 2. 特に結婚は考えていない

} →

→ 問12へ

問11 問10の(1)で1～3のどれかを選んだ方におたずねします。あなたは、結婚を意識してパートナーを探していますか。

1. はい 2. いいえ
-----------------

問12 現在のあなたの結婚に対する意欲の強さについて、あなたの考えに近い数字に○をつけてください。

1	.....	2	.....	3	.....	4	.....	5	.....	6	.....	7	.....	8	.....	9	.....	10
← 弱い										強い →								

問13 あなたは、将来自分が子どもを持つことについてどう考えていますか。あなたの考えに近い数字に○をつけてください。すでに子どもがいる場合は、11に○をつけてください。

1	.....	2	.....	3	.....	4	.....	5	.....	6	.....	7	.....	8	.....	9	.....	10	11
← 子どもは持たなくてもよい										子どもは必ず持ちたい →									
										が子す いどで るもに									

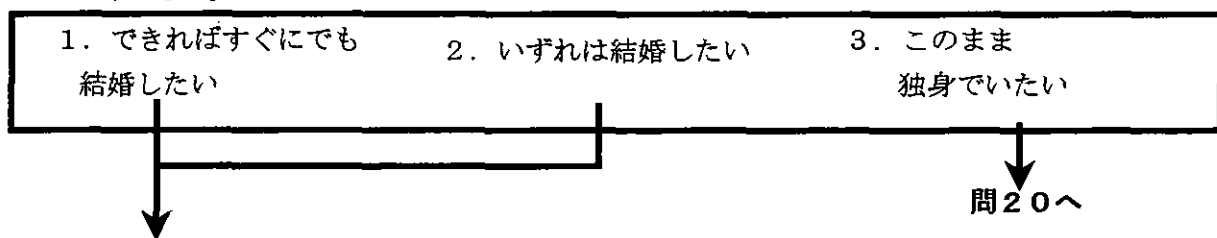
問14 あなたは「結婚適齢期」というものがあると思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。あると思う方は、男性・女性それぞれの結婚適齢期について、数字を記入してください。

男性の結婚適齢期	1. 特にないと思う	2. あると思う →			歳くらい
女性の結婚適齢期	1. 特にないと思う	2. あると思う →			歳くらい

問 15 次の a～k の生き方や考え方について、あなたはどのように思いますか。それぞれについて、太枠内のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

生き方や考え方について	1	2	3	4
	そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う は 思 わ な い	そ う は 思 わ な い
a. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
b. 子どもが小さいうちは、母親は育児に専念すべきだ	1	2	3	4
c. 年をとった親は子どもが面倒をみるべきだ	1	2	3	4
d. 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきだ	1	2	3	4
e. 子どもは法的に結婚した夫婦の間で生まれるべきだ	1	2	3	4
f. 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4
g. 男性も身の回りのことや家事をするべきだ	1	2	3	4
h. 一生独身でいるより、結婚したほうがよい	1	2	3	4
i. 夫に十分な収入がある場合、妻は仕事を持たない方がよい	1	2	3	4
j. 妻にとって、自分の仕事を持つよりも夫の仕事の手助けをする方が大切	1	2	3	4
k. 母親が働くと、小学校へあがる前の子どもに良くない影響を与える	1	2	3	4

問 16 あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどれですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



問 17 あなたは何歳くらいのときに結婚したいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。1を選んだ場合は、希望する結婚年齢を記入してください。

1. <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> 歳くらい
2. 何歳でもよい

問 18 あなたは、配偶者と自分の収入を合わせて、手取りで月収がどのくらいあれば結婚してもよいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- |              |              |           |
|--------------|--------------|-----------|
| 1. 20万円未満    | 4. 40～50万円未満 | 7. 70万円以上 |
| 2. 20～30万円未満 | 5. 50～60万円未満 | 8. わからない  |
| 3. 30～40万円未満 | 6. 60～70万円未満 |           |

問 19 あなたの結婚後の家事分担に対する考えについておたずねします。あなたは、将来の夫または妻に対して、次の a～i に挙げる家事・育児をどのくらいしてほしいですか。太枠内のあてはまる番号に、それぞれ1つずつ○をつけてください。(f～i は将来子どもがほしい方のみお答えください。)

家事・子どもの世話の種類		1 しなくて よい	2 たまに してほしい	3 ときどきし てほしい	4 半分程度 してほしい	5 すべて してほしい
家事・ 介護について ※全員の方が記入	a. 家の掃除	1	2	3	4	5
	b. 洗濯	1	2	3	4	5
	c. 夕食の用意	1	2	3	4	5
	d. 買物(日用品や食料品)	1	2	3	4	5
	e. 親などの介護	1	2	3	4	5
育児について ※将来子どもが欲しい方	f. 子どもの食事の世話	1	2	3	4	5
	g. 子どもの送り迎え	1	2	3	4	5
	h. 子どもの遊び相手	1	2	3	4	5
	i. 子どもを風呂に入れる	1	2	3	4	5

問 20 あなたは現在、どの程度自立した生活を送っていると思いますか。あなたの考えに近い数字に○をつけてください。

1	.....	2	.....	3	.....	4	.....	5	.....	6	.....	7	.....	8	.....	9	.....	10	
← 自立していない										自立している →									

問 21 あなたは将来、子どもを何人持ちたいですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。5人以上の場合は人数を記入してください。

- |       |                     |
|-------|---------------------|
| 0. 0人 | 3. 3人               |
| 1. 1人 | 4. 4人               |
| 2. 2人 | 5. 5人以上 (具体的に____人) |

問 22 あなたの兄弟姉妹数をカッコ内に記入してください。いないときは0を記入してください。

兄 (        ) 人	姉 (        ) 人	弟 (        ) 人	妹 (        ) 人
----------------	----------------	----------------	----------------

問 23 あなたはこれまでに結婚をしたことがありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 結婚したことはない 2. 離別した 3. 死別した
------------------------------------

問 24 下欄に女性の生き方のタイプがいくつか示してあります。

**【女性の方へ】**

- (1) あなたの理想とする人生はどのタイプですか。
- (2) 理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。

**【男性の方へ】**

- (1) 配偶者となる女性には、あなたの理想としてどのようなタイプの人生を送って欲しいと思いますか。
- (2) 配偶者となる女性の人生は、実際にはどのタイプになると思いますか。

それぞれ、あてはまる番号を下の選択肢の中から選び、回答欄に記入してください。  
 なお、「7. その他」を選ぶ場合は、具体的な内容を記入してください。

<b>【下の回答欄に番号を記入】</b>	
1. 結婚・出産で仕事を辞めず、フルタイムの仕事を続ける	
2. 結婚・出産で仕事を辞めず、パートタイムの仕事を続ける	
3. 結婚あるいは出産を機にいったん退職し、適当な時期にフルタイムの仕事につく	
4. 結婚あるいは出産を機にいったん退職し、適当な時期にパートタイムの仕事につく	
5. 結婚あるいは出産を機に退職し、その後は仕事につかない	
6. 結婚・出産をせず、仕事を続ける	
7. その他 (具体的に: _____ )	



回 答 欄	
(1)理想とする人生のタイプ	
(2)実際になりそうな人生のタイプ	

問 25 親との別居経験についておたずねします。あなたは、(1) これまでに親と別居して生活したことがありますか。ある場合は、初めて親元を離れた時の年月と(2)主な別居理由、および(3)親元を離れる前に住んでいた地域についてお答えください。

(1) 別居経験の有無	(2) 別居理由 ※主なもの1つに○	(3) 別居前居住地
1. ある → [ 1. 昭和 2. 平成 3. 西暦 ] 年      月に別居  2. ない	1. 進学 2. 就職 3. 転勤・転職 4. 結婚 5. 親からの自立 6. その他 (            )	1. 農村、山村、漁村 2. 地方小都市 3. 県庁所在地、それと同等以上の大都市

問 26 あなたと同居している方の有無についておたずねします。あなたは、(1)どなたかと同居していますか。同居者がいる場合は、(2)同居者の内訳について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。兄弟姉妹、友人、その他に該当する方がいる場合は、( )内に人数も記入してください。

(1) 同居者の有無	(2) 同居者の内訳
1. 同居者がいる → 2. 同居者はいない	1. 父親 2. 母親 3. 祖父 4. 祖母 5. 兄弟姉妹 → (    ) 人 6. 友 人 → (    ) 人 7. 恋 人 8. その他 → (    ) 人

【父親または母親と同居している方におたずねします。別居している方は問 29 へお進みください。】

問 27 あなたは、(1)親元を離れて生活したいと考えていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。1もしくは2と回答した方は、(2)親元を離れて生活したい理由についても、あなたの考えに最も近い番号に1つだけ○をつけてください。

(1) 別居の意思	(2) 別居したい理由
1. 今すぐ離れたいと考えている 2. いずれ離れたいと考えている 3. 今は考えていないが、以前考えたことがある 4. 離れたいとは考えたことはない	1. 一緒に暮らしたい人がいるから 2. 親や家族と一緒に暮らすのが嫌だから 3. 自立した生活を経験してみたいから 4. 自宅からでは通勤や通学が困難だから 5. その他 (            )

問 28 あなたは親との同居に満足していますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1	.....	2	.....	3	.....	4	.....	5	.....	6	.....	7	.....	8	.....	9	.....	10
← 不満										満足 →								

問 29 あなたは、親の家計に、平均して毎月いくらくらい繰り入れていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

0. なし	4. 7～10万円未満
1. 1千円～3万円未満	5. 10～15万円未満
2. 3～5万円未満	6. 15～20万円未満
3. 5～7万円未満	7. 20万円以上→約_____万円

問 30 あなたが受けた親からの金銭的援助（小遣い、仕送り、贈与、貸金など）は、この一年間に毎月平均しておよそどのくらいですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。なお、学費は除いてお答えください。

0. なし	4. 7～10万円未満
1. 1千円～3万円未満	5. 10～15万円未満
2. 3～5万円未満	6. 15～20万円未満
3. 5～7万円未満	7. 20万円以上→約_____万円

問 31 現在のお住まいは次のどれにあたりますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。持ち家の場合は、所有者の名義について、あてはまる方すべてに○をしてください。

(1)住居の種類	(2)持ち家の所有者
1. 持ち家（一戸建て）	1. あなた 2. 親 3. その他
2. 持ち家（マンションなど）	
3. 賃貸（一戸建て）	
4. 賃貸（アパート・マンションなど）	
5. 社宅・公務員宿舎など	
6. その他（ ）	

問 32 あなたが、(1)最後に通学した（または現在通学している）学校と、(2)その卒業・在学の別についておたずねします。それぞれ、あてはまる番号を1つだけ選び、○をつけてください。さらに、すでに卒業されている方は、(3)卒業年について数字を記入してください。

(1)最後に通学した（または現在通学している）学校	(2)卒業・在学の別	(3)卒業年
1. 中学校	1. すでに卒業 2. 現在在学中（休学含む）	[1. 昭和 2. 平成 3. 西暦] _____年
2. 高校		
3. 専修学校（高卒後）		
4. 短大・高専		
5. 大学		
6. 大学院		
7. その他（ ）		

問 33 あなたが今までに通学したすべての学校について、その学校が公立・私立・国立のいずれだったか、太枠内のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

学校の種類	1	2	3
	公 立	私 立	国 立
a. 小 学 校	1	2	3
b. 中 学 校	1	2	3
c. 高 校	1	2	3
d. 専修学校	1	2	3
e. 短大・高専	1	2	3
f. 大 学	1	2	3
g. 大 学 院	1	2	3

問 34 昨年のあなたの収入についておたずねします。税込み年収（ボーナスや副収入を含み、税金、社会保険料その他が引かれる前の支給総額）について、あてはまる番号を1つだけ選び、回答欄に記入してください。なお、「14. その他」にあてはまる場合には、具体的な金額を記入してください。

1. なし	9. 450～550 万円未満
2. 1～50 万円未満	10. 550～650 万円未満
3. 50～100 万円未満	11. 650～750 万円未満
4. 100～130 万円未満	12. 750～850 万円未満
5. 130～150 万円未満	13. 850～1000 万円未満
6. 150～250 万円未満	14. <u>1000 万円以上</u>
7. 250～350 万円未満	↳ 約 _____ 万円
8. 350～450 万円未満	

ここからは「秩父市」についておたずねします。

問 35 あなたは、秩父市にどのくらい居住していますか。あてはまる数字を記入してください。

1年以上お住まいの方→	( ) 年くらい
1年未満の方 →	( ) ヶ月くらい



問 36 あなたが秩父市に住み始めた理由はなんですか。あてはまるものを最大3つまで選んで○をつけてください。

- 1. 秩父市で生まれ育ったから
- 2. 土地になじみや愛着があるから
- 3. 仕事(商売)や通学に都合が良いから
- 4. 周囲の環境が良いから
- 5. 親が近くに住んでいるから (または同居しているから)
- 6. 寮などの関係で自動的に決定したから
- 7. 交通の便が良いから
- 8. 住居の購入費・家賃が手ごろだったから
- 9. 買物、レジャーに便利だから
- 10. 友人・同僚などが近所に住んでいるから
- 11. 図書館・スポーツ施設など文化施設が充実しているから
- 12. その他 ( )

問 37 秩父市に住んでみて、あなたはどのくらい満足していますか。あなたの考えに近い数字に○をつけてください。

1	.....	2	.....	3	.....	4	.....	5	.....	6	.....	7	.....	8	.....	9	.....	10
← 不満										満足 →								

◆この調査の内容に関連してご意見・ご要望がありましたら、何でもご記入ください。

---

---

---

---

---

---

---

調査票の記入は以上で終わりです。長時間にわたりご協力ありがとうございました。  
誠に勝手ながら、ご返送は平成15年6月30日(月)までをお願いいたします。

厚生労働科学研究費補助金  
政策科学推進研究事業  
秩父市「少子化に関する市民調査」  
結果報告書

少子化研究会編

100-0011 千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル6階

国立社会保障・人口問題研究所 守泉理恵（編集担当）

発行 2004年2月

20030051(4分冊)

厚生労働科学研究費補助金(政策科学推進研究事業)

(課題番号 H14-政策-029)

少子化の新局面と家族・労働政策の対応に関する研究

「少子化に関する自治体調査」第4分冊

# 多治見市「少子化に関する市民調査」 結果報告書

少子化研究会企画・分析  
多治見市・少子化研究会共同実施

厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業  
「少子化の新局面と家族・労働政策の対応に関する研究」  
少子化の見通しに関する一般調査プロジェクト

# 多治見市「少子化に関する市民調査」 結果報告書

少子化研究会企画・分析  
多治見市・少子化研究会共同実施

厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業  
「少子化の新局面と家族・労働政策の対応に関する研究」  
少子化の見通しに関する一般調査プロジェクト

## 【目次】

- I. 調査の概要 (2)
- II. 結果のポイント：夫婦票 (4)
  - 1. 属性 (4)
  - 2. 結婚・出産と女性の就業 (6)
  - 3. 暮らしぶり (9)
  - 4. 既婚者の居住形態と保育資源 (11)
  - 5. 家庭生活 (14)
  - 6. 価値観 (17)
  - 7. 子ども (19)
  - 8. 教育 (21)
  - 9. 保育・育児支援サービスニーズ (23)
  - 10. 多治見市 (27)
- III. 結果のポイント：独身者票 (29)
  - 1. 属性 (29)
  - 2. 結婚・出産と女性の就業－独身者の理想と予定のライフコース (31)
  - 3. 暮らしぶり (33)
  - 4. 交際している異性の存在とパートナー探し (35)
  - 5. 結婚に対する考え方 (37)
  - 6. 子ども (41)
  - 7. 未婚者の居住形態と意識 (43)
  - 8. 価値観 (45)
  - 9. 多治見市 (48)
- IV. 自由回答一覧 (50)
  - 1. 夫婦票 (50)
  - 2. 独身者票 (66)
- V. 調査資料 (67)
  - 1. 単純集計結果表・グラフ (68)
  - 2. 調査票 (夫婦票, 独身者票) (121)

# I. 調査の概要

## 1. 調査目的

1970年代半ばから続く日本の少子化現象については、女性の社会進出等の要因による若年層の晩婚化・未婚化・非婚化が主因であるとみられてきた。しかし、これに加えて、平成14年1月に公表された新将来人口推計では「夫婦の出生力低下」という新たな局面が明らかになった。よって、若年層の晩婚化・未婚化と、結婚した夫婦の出生力低下という2つの面から少子化について実態を明らかにする必要があるが出てきている。

本調査は、こうした現状をふまえて企画されたものである。国民の少子化をめぐる意識や政策ニーズを把握するため、市区町村自治体と連携して調査を実施し、夫婦出生力、独身者の結婚意識に影響を及ぼす要因を把握するとともに、自治体レベルにおける対応の在り方を検討する。それによって地域における有効な少子化対策を検討し、政策提言する。

## 2. 調査実施概要

「少子化に関する市民調査」は、多治見市在住の年齢20～49歳の妻、及び年齢20～49歳の男女独身者を対象とした標本調査で、以下の要領で実施された。

### (1) 調査票の種類

夫婦票(妻が記入)、独身者票

### (2) 調査方法

郵送法

### (3) サンプルング方法、情報管理

住民基本台帳データより、多治見市が系統抽出法を用いてサンプル抽出した。抽出サンプルの個人情報(住所、氏名)はラベルのみに打ち出し、郵送した。多治見市および少子化研究会にはサンプルングされた個人の情報は一切残らず、個人の特定期も不可能である。

### (4) 調査の時期

2003年6月10日(火)～7月23日(水)

### (5) 調査票の回収状況

	夫婦票	独身者票
調査客体数	2000人	3000人
有効回収票数	756票 (有効回収率37.8%)	673票 (有効回収率22.4%)

### 3. 調査実施メンバー

#### 少子化研究会（分担研究者以降50音順）

高橋重郷（主任研究者：国立社会保障・人口問題研究所部長）  
安藏伸治（分担研究者：明治大学政治経済学部教授）  
大淵寛（中央大学経済学部教授）  
岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所研究員）  
加藤久和（国立社会保障・人口問題研究所室長）  
兼清弘之（明治大学政治経済学部教授）  
金子隆一（国立社会保障・人口問題研究所室長）  
坂井博通（埼玉県立大学福祉医療学部助教授）  
新谷由里子（武蔵野女子大学非常勤講師）  
辻明子（早稲田大学人間科学部助手）  
守泉理恵（国立社会保障・人口問題研究所客員研究員）  
吉田良生（朝日大学経営学部教授）  
和田光平（中央大学経済学部助教授）  
福田節也（明治大学大学院）  
鎌田健司（明治大学大学院）

#### 岐阜県多治見市

多治見市 健康福祉部

※ この調査は、厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「少子化の新局面と家族・労働政策の対応に関する研究」の一環として、厚生労働省の研究助成を受けて多治見市と共同実施した。

## II. 結果のポイント：夫婦票（初婚同士の夫婦について）

### 1. 属性（有配偶者）

有配偶者票の回収総数は758票（夫妻とも初婚であるものは703票）であった。回答者の属性について、2000年度の国勢調査の結果と対比しながら概観しておく。なお、以下の表1-1、1-2の結果は妻が初婚・再婚であるかを問わない結果である。

表1-1は回答者（妻）の年齢別分布を示したものである。これをみると、40歳代が54.3%、30歳代が36.3%、20歳代が9.4%であった。2000年の国勢調査をもとに、多治見市の20～49歳有配偶女性の年齢分布は40歳代が47.6%、30歳代が39.1%、また20歳代が13.3%であり、20歳代の妻の割合が若干小さいものの、今回の回答者の年齢分布とほぼ一致していると判断することが可能であり、回答者の年齢分布によるバイアスは大きくないことがわかる。一方、回答者の夫の年齢分布をみると、40歳代が55.5%、30歳代が37.8%、20歳代が6.7%であり、国勢調査では同じく51.8%、38.1%、10.2%である。回答者の分布は20歳代がやや少ないように見える。しかし、注意しなければならない点は、アンケート回答者の夫は20～49歳の妻を持つ条件付き分布である点である。以上から、年齢分布に関してみると、回答者の属性は多治見市を代表するサンプルになっていると言えよう。

次に、就業・非就業の点から属性を検討する。表1-2をみると、アンケート回答者の妻のうち37.8%が無職・家事（学生を含む）であった。多治見市における国勢調査では、有配偶者の就業状態については公表されていないため、配偶関係を問わずに20～49歳女性と比較すると、就業者以外（非労働力・失業）の女性の割合は33.8%であり、回答者とほぼ同じ水準にある。なお、岐阜県全体では、有配偶女性の就業者以外の状態にある女性の割合は39.1%と、多治見市よりやや高くなっている。

回答者（妻）の結婚生活を開始した年齢をみると、この設問に回答した744人のうち、356人（47.8%）が25～29歳であった（図1-1参照）。次いで、20～24歳が323人（43.4%）、30～34歳が55人（7.4%）などとなっており、35歳以降に結婚生活を開始し

表1-1 国勢調査との比較①（年齢分布）

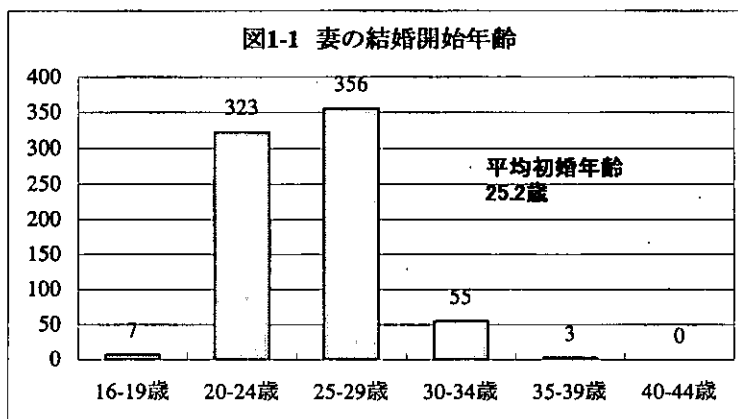
	アンケート回答者		2000年国勢調査	
	妻	夫	女	男
40歳代	54.3%	55.5%	47.6%	51.8%
30歳代	36.3%	37.8%	39.1%	38.1%
20歳代	9.4%	6.7%	13.3%	10.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：すべて割合は無回答を除いて集計。夫に関しては50歳代以上の者を除いて計算した。  
国勢調査は有配偶男女の年齢区分別割合である。

表1-2 国勢調査との比較②（就業状態）

アンケート	妻	国勢調査	多治見市	岐阜県
無職・学生	37.8%	その他	33.8%	39.1%
就業者	62.2%	就業者	66.2%	60.9%
合計	100.0%	合計	100.0%	100.0%

注：国勢調査の多治見市は有配偶に限らない20～49歳女性  
岐阜県は20～49歳有配偶女性の結果である。





た者は3人(0.4%)にすぎない。結婚生活を開始した平均年齢を計算すると25.2歳であった。ちなみに2001年の全国の平均初婚年齢は27.2歳、(回答者の年齢層の幅が30歳であることを考慮して)15年前にあたる1986年の平均初婚年齢は25.6歳であったことから、この点からも回答者に大きなサンプル・バイアスは存在していないように思われる。

表1-3は回答者(妻)とその夫の学歴を要約

表1-3 妻と夫の学歴

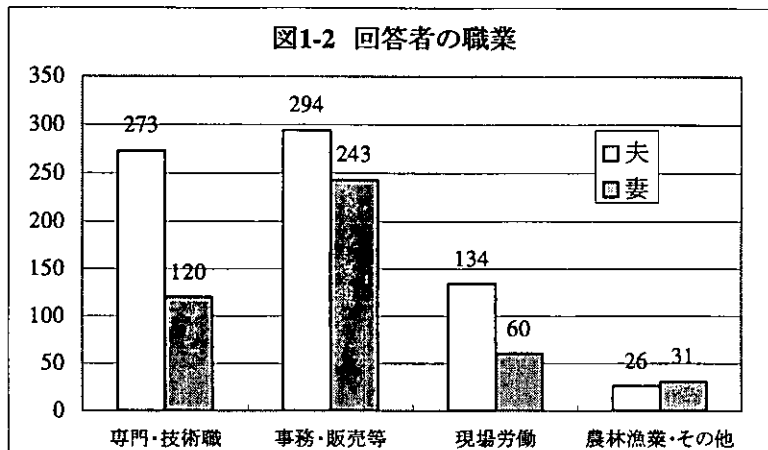
したものである。質問票では7つのカテゴリーに分かれているが、見やすくするため高校・専修学校卒、短大・高専卒、大学以上卒の三つに分類してある。この間に回答した者の総数は749であった。

妻	夫		
	高卒・専門卒	短大・高専卒	大学以上卒
高校・専門卒	38.5%	2.3%	16.1%
短大・高専卒	10.0%	1.9%	17.9%
大学以上卒	1.8%	0.1%	11.5%

注:回答総数は749。

妻が大学卒以上である割合は13.4%であった。夫と妻の学歴について、最も多い組み合わせは夫・妻ともに高卒・専門学校卒であり、全体の38.5%を占めている。次いで、夫が大学卒以上で妻が短大・高専卒が17.9%、夫が大学卒以上で妻が高卒・専門学校卒が16.1%、夫・妻とも大学卒以上が11.5%などであり、この四つの組み合わせで全体の8割以上を占めている。

回答者の職業分布をみたものが図1-2である。夫の職業をみると、事務・販売・サービス・保安職業が最も多く、次いで専門的・技術的職業が続く。妻の場合も事務・販売・サービス・保安職業が最多であり、次いで専門的・技術的職業が続いている。総体的にみると、回答者の多くがホワイトカラーであることがわかる。



回答者の職業分布をみたものが図1-2である。夫の職業をみると、事務・販売・サービス・保安職業が最も多く、次いで専門的・技術的職業が続く。妻の場合も事務・販売・サービス・保安職業が最多であり、次いで専門的・技術的職業が続いている。総体的にみると、回答者の多くがホワイトカラーであることがわかる。

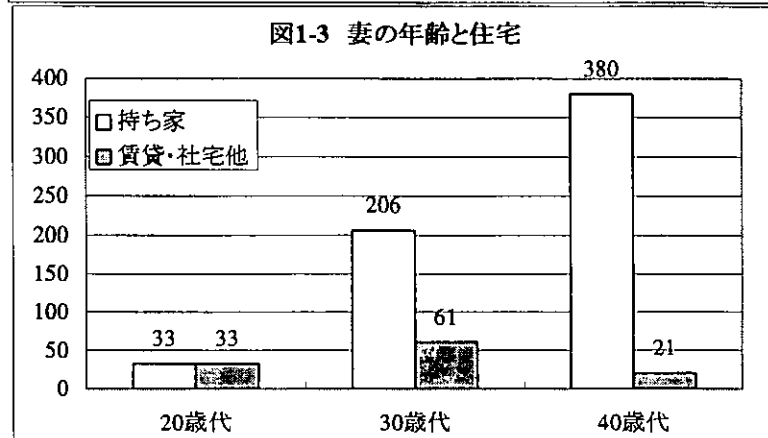


図1-3は妻の年齢別にみた住宅の所有形態である。年齢が高くなるほど持ち家の比率が高く、全体では回答者の84.3%が持ち家であった(なお、持ち家のうち、97.6%が一戸建てであった)。

以上、回答者の属性は多治見市を代表するものであると判断することができよう。

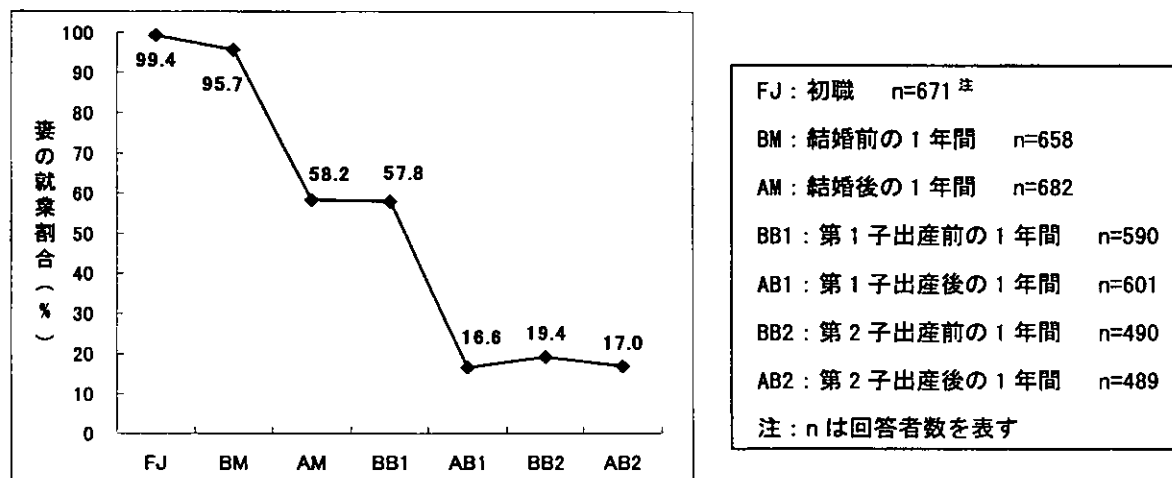
## 2. 結婚、出産と女性の就業

出生率の低下は、結婚しない若者の増加すなわち、未婚化が主要な要因とみなされてきた。しかし、今日では結婚した夫婦間の出生力も低下傾向にあることが指摘されている。近年においては結婚後も就業を継続する女性が多いことから、女性の就業履歴と婚姻、出生行動との関係が重要視されている。本章では『少子化に関する市民調査』の結果より、結婚と出産による妻の就業変化について報告する<sup>1)</sup>。

### 2-1. 結婚と出産による妻の就業変化

図 2-1 は、学校卒業後に最初についた職業（初職）から第 2 子出産後までの各時点において、妻の就業割合<sup>2)</sup>がどのように変化しているのかを図示している。多治見市に居住する有配偶女性のほぼ 100%が学校卒業後に就業した経験をもっている。しかし、妻の就業割合は結婚をきっかけに 40%近く減少している。さらに第 1 子の出産を機に妻の就業割合は 16.6%まで低下している。結婚や第 1 子の出産は、女性の就業割合を著しく低下させていることが明らかである。しかし、第 1 子の出産後は就業割合の変化が小さい。第 1 子の出産後も就業を継続した女性は出産による就業中断の割合が小さいものと思われる。

図 2-1. 結婚と出産による妻の就業変化



### 2-2. 妻の職業と就業継続

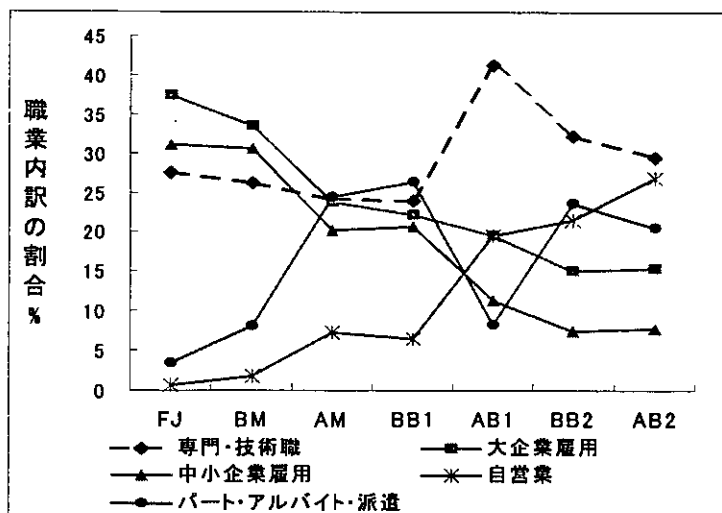
図 2-2 は各ライフコース時点において就業している妻の職業内訳を示したものである。結婚によって、妻の職業に占める大企業雇用、中小企業雇用の割合が大きく低下しており、代わりにパートや派遣の割合が上昇している。女性の就業形態は、結婚をきっかけにパート化している。また、出産を機にパートや中小企業雇用の割合は低下する傾向にあるが、

1) 以後の分析では夫妻ともに初婚であるサンプルのみを用いた。

2) ここでの就業割合には自営やパート・アルバイト等も含む。

自営や専門・技術職の占める割合は上昇している。専門・技術職や自営業の女性は、子どもがいても就業を継続しやすいのに対し、一般に企業雇用、特に中小企業に勤める女性は出産後に就業を継続しない傾向にある。

図 2-2. ライフコースにおける妻の職業内訳



FJ: 初職 n=658<sup>注</sup>  
 BM: 結婚前の1年間 n=622  
 AM: 結婚後の1年間 n=394  
 BB1: 第1子出産前の1年間 n=337  
 AB1: 第1子出産後の1年間 n=97  
 BB2: 第2子出産前の1年間 n=93  
 AB2: 第2子出産後の1年間 n=78  
 注: nは回答者数を表す

\* サンプルは就業者のみ。左記に当てはまらない雇用形態は除く。

### 2-3. 妻の就業変化と職業

次に、結婚および出産前後の女性の就業変化を職業別にみってみる。表 2-3-1 は、結婚の前後 1 年間における職業および就業状態の変化を表している。結婚前後における女性就業の変化は、同じ職業を継続するか就業を中断するかという 2 つの選択に、正規就業からパートへの転出が合わさったものとなっている。

表 2-3-1. 結婚による妻の就業変化

		結婚後1年間の職業					Total (%)	サンプル数	
		専門・技術職	大企業雇用	中小企業雇用	自営業	パート・派遣			無職
1 結婚 年間 前の 職業	専門・技術職	58.8	0.6	0.6	4.4	12.5	23.1	100.0	160
	大企業雇用		44.9	1.4	1.4	11.1	41.1	100.0	207
	中小企業雇用	0.5		39.8	3.8	14.5	41.4	100.0	186
	自営業				30.0		70.0	100.0	10
	パート・派遣			2.0	6.1	49.0	42.9	100.0	49
	無職			3.6	10.7	3.6	82.1	100.0	28
	Total (%)		14.8	14.7	12.5	4.1	14.8	39.1	100.0

結婚前に企業に雇用されていた女性の 4 割、自営業に従事していた女性の 7 割、そしてパート・派遣就業の女性の 4 割が結婚をきっかけに就業を中断している。一方、就業継続者の割合が高いのは、専門・技術職 (76.9%) の女性である。専門・技術職の女性が結婚の前後で同じ職業を継続している割合は 58.8% となっており、他の職業よりも高い値となっている。一方、中小企業雇用の女性は結婚後にパート・派遣へと転出する割合が高い (14.5%)。多治見市では結婚の前後で同一職業で就業を継続する女性が 4 から 5 割、結婚を機に退職する者が 4 割弱、そして残りの女性はパートや派遣をはじめとする職業へと転職するとい

うパターンが一般的であるといえる。

表 2-3-2. 第 1 子出産による妻の就業変化

		第1子出産後1年間の職業					Total (%)	サンプル数	
		専門・技術職	大企業雇用	中小企業雇用	自営業	パート・派遣			無職
1 第 年 1 子 間 の 出 産 前 業 前	専門・技術職	50.7				1.3	48.0	100.0	75
	大企業雇用		26.4			1.4	72.2	100.0	72
	中小企業雇用			14.5	2.9	1.4	81.2	100.0	69
	自営業				68.2		31.8	100.0	22
	パート・派遣	1.2			2.4	5.9	90.6	100.0	85
	無職	0.4		0.4			99.2	100.0	243
Total (%)		7.1	3.4	1.9	3.4	1.4	82.9	100.0	566

第 1 子出産前後に着目すると、パートへの転出割合は減少し、妻の就業は同じ職業を継続するか、就業を中断するかに収束していることが明らかである（表 2-3-2）。就業継続者の割合が高いのは、専門・技術職（50.7%）と自営（68.2%）の女性であり、共に同一職業での就業継続割合が高い。一方、大企業・中小企業雇用の女性の 7-8 割、そしてパート・派遣女性の 9 割が第 1 子出産をきっかけに就業を中断している。

第 1 子出産は女性が就業を中断する最も大きな要因となっている。しかし、職場復帰が比較的容易な専門・技術職や自営業の女性は、第 1 子出産後も就業を継続する割合が比較的高いといえることができる。

表 2-3-3. 第 2 子出産による妻の就業変化

		第2子出産後1年間の職業					Total (%)	サンプル数	
		専門・技術職	大企業雇用	中小企業雇用	自営業	パート・派遣			無職
1 第 年 2 子 間 の 出 産 前 業 前	専門・技術職	82.1				3.6	14.3	100.0	28
	大企業雇用		85.7		7.1		7.1	100.0	14
	中小企業雇用			71.4		28.6		100.0	7
	自営業				90.0		10.0	100.0	20
	パート・派遣					33.3	66.7	100.0	21
	無職			0.3	0.5	1.3	97.9	100.0	390
Total (%)		4.8	2.5	1.3	4.4	3.1	84.0	100.0	480

図 2-3-3 によると、第 2 子出産の前後では、パート・派遣の女性を除く有就業女性の約 8 割が出産後も就業を継続しており、同じ職業での就業継続の割合が高まっている。図 2-1 において、第 2 子出産前後における妻の就業割合の変化がわずかであったのは、同一職業（そしておそらくは同一企業）における就業継続によるものであるといえる。しかし、この段階まで就業している女性は 78 人（第 2 子出産経験がある女性の 17%）と非常に少数である。

以上のように、女性の就業は結婚や出産によって中断される傾向が強く認められる。また、職業によって異なる職場復帰の容易さや育児支援の利用可能性が、女性の就業継続に重要な影響を与えていることが示唆される。一度退職した女性が再び正規雇用に就くことは難しいことを考慮すると、就業意欲をもつ女性が働き続けることができる職場環境を整備することは少子化対策の重要な課題といえよう。